

[横浜市民ギャラリー]
令和3年度業務報告及び収支決算
 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体]

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町 26- 1
構造・規模	鉄筋コンクリート 4階建(地下1階～地上4階)
敷地・延床面積	敷地面積 2,301.11㎡、延床面積 3,428.44㎡
開館日	平成26年10月10日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町 2番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成28年4月1日から令和4年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

新型コロナウイルス感染症拡大といった特殊事情のため指定管理期間が1年延長され、令和3年度は第3期指定管理期間の6年目、最終年に位置付けられました。新型コロナウイルス感染症拡大の中での運営も2年目となり、昨年度の経験も活かしつつ、安心安全を第一とした運営を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大という難題の中にあっても、これまでの管理運営や事業の経験と蓄積を活かし、下記の3つの基本方針に沿って、最善の方法を模索しながら運営を行い、第3期指定管理期間での目標の大方を実現することができました。

【基本方針】

1 文化芸術活動拠点としての機能の強化

昨年度から全世界的に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症拡大は、度重なる緊急事態宣言やまん延防止措置法の発令などで、人々の生活を大きく変えてきました。感染拡大当初から1年以上経過した令和3年度では、感染予防に努めることは継続して共通課題でありながらも、コロナウイルスとの共存の模索の必要性も現実化してきました。このような中、横浜市民ギャラリーは市民の心の糧となる文化芸術活動拠点であり続けることができるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ、自主事業の展览会や、施設貸出事業での展览会も催していただける

よう力を尽くしてきました。自主事業においては、横浜市民ギャラリーにお出かけいただいた方はもとより、外出できない方に対してもオンライン等を介して、文化芸術に触れることのできる機会を提供する工夫を行いました。

2 市民文化活動や創造活動に対する支援の強化

コロナ禍のため、横浜市のガイドラインに準拠した横浜市民ギャラリーガイドラインを柔軟に改定しながら、その運用について利用団体や講座の参加者、ご来場の皆さまにも協力を求めました。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ、貸展示室業務を中心とした市民の創造活動のサポートを行いました。ガイドラインの変更、分かりにくい事などは特に丁寧なご説明を心がけました。

3 次世代を担う人材の育成の強化

昨年度は実施を見送った「横浜市こどもの美術展」と「コレクション展2022」でのボランティアや、学生インターンを今年度は受け入れ、感染防止に努めながらも、活動していただくことができました。就業実習生の受け入れも実施いたしました。

【質の高い施設運営及び管理の実施】

新型コロナウイルス感染症拡大を防止しつつ、3つの基本方針を支えるために、経験豊富なスタッフが、運営面で施設利用者へ丁寧なアドバイスを行うほか、文化施設管理での高い実績を持つ共同事業体として強みを活かし、入館者が安心して創作や鑑賞に励める施設環境を提供しました。

(2) 3年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務について】

2年目となる新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、昨年度の経験も活かしつつ、横浜市と連携を図り、また共同事業体としてそれぞれの専門知識を発揮できました。

① 事業について

「横浜市こどもの美術展」はコロナ禍以前と大きく異なる運用方法として実施しました。個人での出品に限ったことと、オンライン予約でのご来場方法としたことです。子ども達、ご家族の安全を重視した中での最善の方法であったと考えます。出品数は従来の展覧会に比べれば数は減りましたが、その一方で、「じっくり作品を楽しめた」というお声を頂戴できました。「新・今日の作家展2021」は「日常の輪郭」を副題に、まさにコロナ禍を生きる人々に、日常への関心を喚起する意欲的な展覧会となりました。オンラインコンテンツの充実も図りました。「コレクション展2022」は、「モノクローム」をテーマに所蔵作品をピックアップして展示を構成。関連イベントも充実させて、コレクションの豊かさを紹介することができました。「大人のためのアトリエ講座」と「ハマキッズ・アートクラブ」は、昨年度に引き続き募集定員を減らすなど安全性確保の対策をしたうえで開催しました。いずれも定員を大きく上回る申し込みがあり、コロナ禍だからこそ待ち望まれていた講座だったことが窺えます。

② 運営について

コロナ禍以前と比べると、展示室利用は減っているとはいえ、昨年度と比べると、展覧会の開催が大きく増えた1年でした。ご利用が増えることは嬉しい反面、「密になる」状況が起きやすく、ご来場者、ご利用者の皆様の安全確保という観点からも、感染防止ガイドラインをお守りいただくこ

とを丁寧にご説明しました。有難いことに、当館内での陽性者クラスターの発生に至ることはありませんでした。

③ 管理について

通常の施設管理業務に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、空調、換気、清掃など多岐にわたる事項について十分な対応を取りながら、常に施設の利用状況に注意を払い、効率性を保ちつつも、快適な空間をお客様に提供することに努めました。また I P M についても、学芸員、設備担当職員、外部専門業者と密な情報共有を行いながら、美術施設としての高い機能を維持しました。

④ その他について

令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大という課題と向き合う日々でした。お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めてまいりました。当館に勤務するスタッフから感染者が出た場合の対応や応援体制などの想定を行い、万全を期して管理運営を行ってまいりました。次年度以降にもこの経験を活かしてまいります。

4 業務の取組と達成指標

(1) 事業について

ア 発信性のある自主事業の実施について

[目指す成果]

歴史ある展覧会を実施し、市民へ多様な美術の鑑賞機会を提供します。

[成果についての振り返り]

「新・今日の作家展 2021」は、「日常の輪郭」を副題に身近な場所あるいは世界で起こっている事象に向き合い、未来を志向していく行動と日常への関心を喚起するような制作をしている2作家を紹介しました。感染症対策を講じ安心して作品を鑑賞できる環境を整えつつ、作家の制作を周知し展覧会をより楽しむためのオンラインコンテンツの充実を図りました。

「コレクション展 2022」は、「モノクローム」をテーマに所蔵作品をピックアップして展示を構成しました。これまで展示する機会の少なかった出品作品もあり、コレクションの豊かさを周知することができました。

いずれの展覧会も、例年好評の出品作家インタビューや、作家や展覧会への理解を深める作品解説、鑑賞の手引きとなる小冊子の無料配布、多様な角度から美術を楽しむことができる関連イベント等を実施しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●自主企画展の 年1回以上の 開催	現在のアートシーンを紹介する 展覧会の実施 □新・今日の作家展 2021	□新・今日の作家展 2021「日常の輪郭」(展示室1、 B1)(9/18-10/10) 今年度は、2作家の作品95点を展示しました。 初めての試みとして、会期前の出品作家インタビューに加え、出品作家同士の対談を動画収録しオンラインで公開しました。また会期中、各出品作

<p>●収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催</p>	<p>□入場者数 3,000名 □関連企画 2事業</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>横浜市民ギャラリーの所蔵作品を紹介する展覧会の実施</p> <p>□コレクション展2022</p>	<p>家とゲストによる対談を実施しました。対談は、会場にて手話通訳付きで実施すると共に動画収録しオンライン公開しました。合計3本の対談動画は、会場で無料配布する小冊子掲載のインタビューやステートメントと合わせて、展覧会と出品作家の活動を周知し関心を集めました。またミュージアムを中心に手話などの情報保障のあるプログラムを紹介・提供している団体〈手話マップ〉が主催する、手話と音声日本語で語り合う対話型鑑賞会「シュワー・シュワー・アワーズ」が、本展を鑑賞対象として実施され、手話で話す方や手話を知らない方たちが一緒に展示について対話されました。</p> <p>展覧会は過去の同シリーズの中でも来場者が多く好評を得ました。会期終了後には、展示風景と関連イベントの対談3本を収録した記録集を作成し、展覧会アーカイブおよび作家資料の充実を図りました。</p> <p>出品作家：田代一倫、百瀬文</p> <p>□入場者数 4,274名 □関連企画 3事業+1協力事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対談「田代一倫×百瀬文」(8/5) オンライン公開のみ、公開期間9/18-10/10 ・対談「身体の管理／抑圧と欲望の関係について」(9/25)オンライン公開期間10/3-11/30 出演：百瀬文、清水知子(文化理論家、筑波大学准教授) ・対談「肖像写真とスナップショット」(10/2)オンライン公開期間10/5-11/30 出演：田代一倫、倉石信乃(写真批評家、明治大学教授) ・協力事業「シュワー・シュワー・アワーズ」(トライアル9/26・10/3、本番10/9) <p>□顧客満足度 4.4</p> <p>□コレクション展2022「モノクローム—版画と写真を中心に」(展示室1、B1)(2/25-3/13) 本年度は、テーマに沿って版画と写真を中心に</p>
-------------------------------	--	---

<p>●「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施</p>	<p>□入場者数 2,000名 □関連企画 2事業</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>■「今日の作家展」の記録の整理</p> <p>□関連作家等へのインタビューの実施：インタビュー実施1名</p>	<p>54点を展示しました。展示は、4つのセクションと特集展示として横浜を拠点に活動した写真家・浜口タカシの作品13点により構成しました。関連イベントでは、展覧会テーマと版画に着目したワークショップや鑑賞サポーターが所蔵作品の魅力を紹介するトーク、ハマキッズ・アートクラブの一講座でもある、展覧会と館内を巡るツアーを実施し、コレクションを様々な角度から楽しむ場をつくりました。収蔵作家の貴重な証言として、展覧会に合わせて出品作家の北川健次氏にインタビューし、収録した動画を会場およびホームページで公開すると共に会場で無料配布する小冊子に掲載しました。小冊子に加えて作成した「鑑賞サポーターによる作品紹介シート」は作品により親しむツールとなりました。「新・今日の作家展」同様に対話型鑑賞会「シュワー・シュワー・アワーズ」が、本展を鑑賞対象として実施され、手話で話す方や手話を知らない方たちが一緒に出品作品について対話されました。</p> <p>□入場者数 3,635名 □関連企画 3事業+1協力事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「凸凹（でこぼこ）で刷る版画・コラグラフ」（2/26） ・鑑賞サポーターによるトーク（3/6、12） ・ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」（3/12） ・協力事業「シュワー・シュワー・アワーズ」（トライアル3/1、本番3/5） <p>□顧客満足度 4.5</p> <p>■「今日の作家展」の写真アルバムのデータベース化を進めました。</p> <p>■ホームページ内に「事業アーカイブ」ページを開設し、検索機能のもと、アーカイブ化された開催事業を閲覧できるようにしました。</p> <p>□2名（田代一倫、百瀬文）の収録を実施し、インタビュー映像をホームページで公開、小冊子にテキストを掲載しました。</p>
--------------------------------------	--	---

<p>●収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施</p>	<p>■ホームページにおける収蔵作品検索ページの公開、更新</p> <p>□ホームページでの収蔵作品の紹介 12点</p> <p>□収蔵作品の作家へのインタビューの実施 1名</p>	<p>■平成30年度に公開した収蔵作品検索ページを継続して公開・更新しました。また、同ページにおけるサムネイル図版の公開を開始し、251件を新規公開しました。</p> <p>□ホームページでの収蔵作品紹介 12点 五十嵐英壽《ハマの三塔》、町田京子《児童遊園地》、高梨潔《ヨットハーバー（新山下）》、栃木順子《もう一つの風景-B》、河崎英男《ハイウェイ》、松島一郎《横浜公園》、杉浦勝人《卓上風景》、小島昇《塔のある風景》、西森禎子《ZEROの誕生》、斎藤義重《ボウパンA・白》、一原有徳《SON88》、海老原暎《ベンチシリーズ 5》</p> <p>□1名（北川健次）の収録を実施し、「コレクション展2022」の会場で上映、ホームページで公開、小冊子にテキストを掲載しました。</p>
<p>●インターン制度の継続実施</p>	<p>■学芸員や教育普及者、実技指導者を目指している学生を対象としたインターン制度については、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、実施を検討します。</p> <p>□特別支援学校の学生を対象に、美術施設としてのビルメンテ実習を行います。 特別支援学校インターン生 2名受け入れ</p>	<p>■「子ども向け事業企画・運営業務」「コレクション管理補助業務」「展覧会データベース構築補助業務」の3つの業務で募集を行い、それぞれ4名、2名、3名を受け入れ、活動をおこないました。</p> <p>□1名を受け入れました。 特別支援学校の生徒の就業支援となるよう、清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生として、4日間に渡って、1名を受け入れました。</p>
<p>●横浜市の文化事業との連携</p>	<p>□「フォト・ヨコハマ2022」との連携：1事業</p>	<p>□1事業 フォト・ヨコハマの開催に合わせ、大人のためのアトリエ講座の中で、横浜を拠点に活躍するアーティストによる写真講座を企画しましたが、「フォト・ヨコハマ2022」自体が新型コロナウイルス感染症拡大のために開催中止となったため、連携とはなりません。写真講座は、ピンホールカメラ制作や現像を通して、カメラの原型について体験できる内容で予定通り開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人のためのアトリエ講座「ピンホールカメラ体験「見る」ことを考える」（2/11・12）

<p>●鑑賞サポーターの育成及び活用</p>	<p>■「横浜国際舞台芸術ミーティング 2021 (YPAM2021)」との連携 フリンジ会場提供</p> <p>□コレクション展におけるサポーターの活用</p> <p>サポーターによる作品紹介</p> <p>年 1 回</p>	<p>講師：細淵太麻紀（アーティスト）、参加者数 22 名、顧客満足度 5.0</p> <p>■「横浜国際舞台芸術ミーティング 2021 (YPAM2021)」のフリンジ会場となりました。舞台公演の稽古場と本公演用に展示室をご利用いただくことで、美術とは異なるジャンルでの利用について協力しました。（オンライン配信で実施）</p> <p>□年 1 回実施</p> <p>育成研修を 4 回実施（1/8、1/22、2/13、2/27）し、鑑賞サポーター 9 名が活動しました。「鑑賞サポーターによる作品紹介シート」を会場で来場者に無料配布、展示室でのトーク（3/6、12）を実施しました。</p>
------------------------	--	---

イ 次代を担う子どもの創造性教育事業の実施について

<p>[目指す成果]</p>		
<p>作品発表の場、文化芸術の体験の場を提供し、様々な経験を得て、自立の仕方を学べる場とします。</p>		
<p>[成果についての振り返り]</p>		
<p>前年度中止となった「横浜市こどもの美術展」は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、作品募集対象を個人のみ限定、またオンラインによる事前来場予約制を導入することで来場者数を統制するなどし、開催を実現しました。そのため出品規模は大幅に縮小となりましたが、会期中には例年以上に一つ一つの作品を丁寧に鑑賞する家族連れの来場者の姿が多く見られ、2年ぶりの開催を喜ぶ声が多数寄せられました。</p>		
<p>ハマキッズ・アートクラブや横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムも、安心して参加できるよう内容や実施方法を工夫したり、定員を調整したりすることで、すべて予定どおり開催しました。コロナ禍において、子どもたちの活動が様々な制限される中、創作活動を通じて「自分で考え、自分で決め、自分でする」ことを体験する貴重な機会をつくることができました。そのほか、地域連携企画など、子どもと大人がともに参加できる造形ワークショップを多数開催しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●「横浜市こどもの美術展」の実施と新たな取組</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□横浜市こどもの美術展 2021</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□横浜市こどもの美術展 2021（展示室 1、2）（7/23-8/1）</p> <p>展覧会テーマはオリンピック開催にあわせて「スポーツ」とし、関連事業とともに一体感のある内容を企画しました。「自由テーマ部門」も含め、子どもたちがのびのびと描いた絵画作品が展示されたほか、ハマキッズ・アートクラブ「アートリンピック—スポーツを等身大アートで表現しよう！」（後述）の参加者が、スポーツをする自分を等身大で表現し</p>

<p>●子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組</p>	<p>□入場者数 3,000名</p> <p>□出品数 300点</p> <p>□関連企画 1事業</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>■＜テーマ部門＞の設定 オリンピック開幕にあわせ「スポーツ」部門を設定</p> <p>□「横浜市こどもの美術展」 思い出募集・展示 年1回</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 全10回</p> <p>□親子対象講座 年5回</p>	<p>た作品も会場をにぎやかに彩りました。例年会場内で実施しているワークショップは感染症対策のためお土産型に変更し、子どもたちが自宅で制作した作品画像を募集、後日オンラインで紹介するなど、参加体験を充実させる工夫を行いました。また、学生インターンは会期中の来場者対応や写真撮影コーナーの制作、ボランティアはワークショップ材料の事前準備を行うなど、活動の規模を縮小しながらも中止することなく実施することで学びや交流の場を確保し、様々な人とともに作り上げる展覧会を目指しました。</p> <p>□展覧会入場者数 1,974名（うちインターン参加者数のべ12名）、ボランティア（展覧会準備）3名</p> <p>□スポーツ部門 69点、自由テーマ部門 162点 計 231点</p> <p>□関連企画 3事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハマキッズ・アートクラブ作品展示（7/23-8/1）14点 ・「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐ History & Memory」展示（7/23-8/1）11件 ・おうちでワークショップ「オリジナルメダルをつくろう！」（7/23-8/1）、みんなの作品紹介動画公開（8/18～） 応募作品数 36点 <p>□顧客満足度 4.7</p> <p>■テーマ部門「スポーツ」を設定。関連企画を含む展覧会全体のテーマとしました。</p> <p>□「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐ History & Memory」展示（7/23-8/1）</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 全10回 定員を例年の約半分に減らすなどし、感染症対策を行いながら年齢に応じた様々なプログラムを実施しました。コロナ禍においても、活動を通じて子どもたちに「自分で考える、自分で決め、自分でする」ことの楽しさや醍醐味を体験する機会を提供しました。</p> <p>□親子対象講座 年5回</p> <p>①「えのぐであそぼう」（4/24）、講師：山田佐映子（ワークショップユニット「うめぐみ」主</p>
--------------------------------	---	--

<p>●横浜美術館、</p>	<p>□小学校低学年対象講座 年3回</p> <p>□小学校高学年対象講座 年2回</p> <p>□参加者数 100名 □顧客満足度 4.0以上</p> <p>□3館で事業連携をし、講座</p>	<p>宰)、参加者数8組16名、顧客満足度5.0</p> <p>②「えのぐであそぼう」(5/15)、講師：山田佐映子(ワークショップユニット「うめぐみ」主宰)、参加者数8組16名、顧客満足度5.0</p> <p>③「スチロールで船をつくろう」(9/5)、講師：川崎和美(造形作家)、参加者数8組16名、顧客満足度5.0</p> <p>④「ステキなステッキをつくろう」(10/16)、講師：大竹美佳(造形作家)、参加者数12組24名、顧客満足度5.0</p> <p>⑤「スーパーカーをつくろう」(1/23)、講師：宇田川純子(アーティスト)、参加者数10組19名、顧客満足度4.7</p> <p>□小学校低学年対象講座 年4回</p> <p>①「アートリンピックスポーツを等身大アートで表現しよう！」(7/4)、講師：LITTLE ARTISTS LEAGUE(アート団体)、参加者数14名、顧客満足度5.0、「横浜市こどもの美術展」にて作品展示</p> <p>②「森のペンとノートをつくろう」(12/12)、講師：泉桐子(日本画家)、参加者数13名、顧客満足度4.9</p> <p>③「オリジナルバッグをつくろう」(2/19)、講師：横浜美術館子どものアトリエチーム、参加者数11名、顧客満足度5.0</p> <p>④「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」(3/12)、講師：河上祐子(当館学芸員/エドゥケーター)、参加者数7名、顧客満足度4.7</p> <p>□小学校高学年対象講座 年3回</p> <p>①「アートリンピックスポーツを等身大アートで表現しよう！」(7/4)(再掲)、講師：LITTLE ARTISTS LEAGUE(アート団体)</p> <p>②「油絵に挑戦！」(8/28)、講師：東麻奈美(アーティスト)、参加者数17名、顧客満足度4.9</p> <p>③「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」(3/14)(再掲)、講師：河上祐子(当館学芸員/エドゥケーター)</p> <p>□全講座の参加者数153名 □全講座の顧客満足度4.9</p> <p>□年4回</p>
----------------	---	--

<p>横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携</p>	<p>内容や対象年齢を考慮した講座の開催。申込受付方法等改善のための情報交換。 企画会議：年1回実施</p> <p>■3館での相互広報の体制作り：応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みの継続。(28年度から継続実施)</p>	<p>コロナ禍での講座実施方法、各館の講座内容等の情報交換を行いました。(5/11、10/5、11/11、2/19)</p> <p>■応募の落選者に他館の講座を周知し、他館の事業への参加促進に寄与しました。</p>
<p>●親子講座の開催</p>	<p>□親子で造形を楽しむ講座を開催：年5回実施</p>	<p>□年9回</p> <p>①「えのぐであそぼう」(4/24)(再掲)、講師：山田佐映子(ワークショップユニット「うめぐみ」主宰)</p> <p>②「えのぐであそぼう」(5/15)(再掲)、講師：山田佐映子(ワークショップユニット「うめぐみ」主宰)</p> <p>③「スチロールで船をつくろう」(9/5)(再掲)、講師：川崎和美(造形作家)</p> <p>④「ステキなステッキをつくろう」(10/16)(再掲)、講師：大竹美佳(造形作家)</p> <p>⑤「スーパーカーをつくろう」(1/23)(再掲)、講師：宇田川純子(アーティスト)</p> <p>⑤出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》横浜能楽堂 伝統文化一日体験オープンデー「アートハットづくり」(8/16)、参加者数28名(14組)</p> <p>⑦黄金町エリアマネジメントセンターとの連携企画・親子向けワークショップ「オープンアトリエ こうさくであそぼう！」(12/5、8)、参加者数39名(12組)</p> <p>⑧出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》「つくってあそぼう！横浜市民ギャラリーのアトリエがやってくる！」(1/23)、参加者数114名(57組)</p> <p>⑨コレクション展関連ワークショップ「凸凹で刷る版画・コラグラフ」(2/26)、参加者数14名、顧客満足度4.8</p>
<p>●横浜市芸術文化教育プラッ</p>	<p>■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの協力</p>	<p>■横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムに積極的に協力しました。(全3校9回)</p>

<p>トフォーム 『学校プログラム』への協力</p>	<p>学校プログラムの実施 年1回以上</p>	<p>① 横浜市立田奈小学校個別支援級のべ 50 名 (10/25、26、11/2)「自分でするって楽しい！」 講師：三ツ山一志(造形教育家)</p> <p>② 横浜市立本宿小学校3年生4クラス のべ 249 名(11/8、9、10)「空とぶわたし」 講師：さとうりさ(アーティスト)</p> <p>③ 横浜市立川和小学校5年生3クラス のべ 82 名(12/17、20、21)「絵馬を描こう！」 講師：泉桐子(日本画家)</p>
--------------------------------	-----------------------------	---

ウ 市民やアーティストの創造活動支援の実施について

<p>[目指す成果] 実技と教養の講座を開催し、展覧会事業に加え、“美術”をめぐるアプローチを多く提供して美術ファンのすそ野を広げます。</p> <p>[成果についての振り返り] 大人のためのアトリエ講座では、これまでの人気講座(人体を描くデッサンシリーズ、古典日本画技法体験)を継続し、新たな試みとして写真表現の基礎でもあるピンホールカメラの制作から現像まで一日で体験する講座を開催。また、神奈川県立音楽堂などこれまで培ってきた近隣文化施設との繋がりをより発展した共催事業を複数実施しました。レクチャーでは、新規事業でもある「U35 若手芸術家支援事業」の関連事業として「アトリエトーク」を開催。会場をアーティストの制作現場を再現した様に設え、様々な切口からクリエイティブな空間を演出した場を提供しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のために、年間を通して定員を絞り、十分な感染対策を講じたうえで創造活動の場を提供しました。コロナ禍においても参加申込者数が多いことから、創造活動に対するニーズは衰えていないことが分かります。これまでの参加者のニーズに応えるとともに、近隣文化施設との共催で新たな取り組みの講座を実施したことにより、若い世代から高齢者まで幅広い層の新規参加者を迎えることができました。</p>		
<p>[取組内容] ●利用団体等が行う活動の支援の充実 ・利用団体への丁寧な相談・助言 ・利用団体の展覧会についての積極的な広報</p>	<p>[達成指標] ■事前打ち合わせを実施 ■「ヨコハマ・アートナビ」「アートヨコハマ」「横浜画廊散歩」での事前広報 ■「ヨコハマ・アートナビ」への情報提供 □「アートヨコハマ」年3回発行 □「横浜画廊散歩」月1回発行</p>	<p>[実施内容と達成状況] ■展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。 ■利用団体の展覧会情報を横浜市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともに、LOD化されている「ヨコハマ・アートナビ」へ情報提供するなど、積極的な広報支援に努めました。 ■「ヨコハマ・アートナビ」への情報提供を毎月実施しました。 □「アートヨコハマ」年3回発行(6月、8月、1月) □「横浜画廊散歩」毎月発行。</p>

<p>●文化芸術の体験の場としての講座等の実施</p>	<p>■ホームページでの展覧会の紹介：会期初日にホームページ上で公開</p> <p>□大人のためのアトリエ講座 全10講座</p> <p>□つくって学ぶ 年7講座</p> <p>□きいて学ぶ 年3講座</p>	<p>■横浜市民ギャラリーを利用する全ての団体の展覧会期初日に会場の様子を撮影し、ホームページで公開するとともにSNSでも画像やハッシュタグを付ける等の工夫をしながら発信し、広報に協力しました。</p> <p>□大人のためのアトリエ講座 全13講座</p> <p>□つくって学ぶ 年10講座</p> <p>① 4/14、4/21、4/28、5/5「着衣クロッキーAコース」、参加者数16名、顧客満足度4.8</p> <p>② 4/30、5/7、5/14、5/21、「和の装いを描く」、講師：清野晃代（画家）、参加者数13名、顧客満足度4.9</p> <p>③ 6/3、6/10、6/17、6/24「着衣クロッキーBコース」、参加者数16名、顧客満足度4.6</p> <p>④ 9/4、9/11「はじめての日本画 絹に描くー若冲の彩色に学ぶ」、講師：武田裕子（日本画家）、参加者数15名、顧客満足度4.9</p> <p>⑤ 11/18、11/25、12/2、12/9「着衣クロッキーCコース」、参加者数17名、顧客満足度4.7</p> <p>⑥ 12/10「横浜市民ギャラリー＋横浜能楽堂連携企画 日本画（板絵）体験と横浜能楽堂見学」講師：武田裕子（日本画家）、参加者数32名、顧客満足度4.9</p> <p>⑦ 12/11、12/18「はじめての日本画 絹に描くー若冲の彩色に学ぶ」、講師：武田裕子（日本画家）、参加者数15名、顧客満足度5.0</p> <p>⑧ 1/14、1/21、1/28、2/4「着衣クロッキーDコース」参加者数15名、顧客満足度4.5</p> <p>⑨ 2/11「ピンホールカメラ体験「見る」ことを考える」、講師：細淵太麻紀（アーティスト）、参加者数9名、顧客満足度4.9（再掲）</p> <p>⑩ 2/12「ピンホールカメラ体験「見る」ことを考える」、講師：細淵太麻紀（アーティスト）、参加者数13名、顧客満足度5.0（再掲）</p> <p>□きいて学ぶ 年3講座</p> <p>① 10/17「横浜市民ギャラリー＋神奈川県立音楽堂連携企画 対話型ワークショップ「茶色の朝」</p>
-----------------------------	--	--

<p>○若手芸術家の活動支援</p> <p>●美術情報の提供及び広報の充実</p> <p>・横浜美術館との情報連携の強化</p>	<p>□参加者数 130名</p> <p>□顧客満足度 4.0以上</p> <p>□U35若手芸術家支援事業 2展覧会以上</p> <p>■広報連携の実施</p> <p>■横浜美術館「市民のアトリエ」との連携講座を開催</p>	<p>を体験しよう」、講師：清野晃代（画家）、参加者数6名、顧客満足度5.0</p> <p>② 12/4「横浜[出前]美術館 岩井優トーク「かたづけたいけど、ちらかしたい。」、講師：岩井優（アーティスト）、参加者数18名、顧客満足度4.7</p> <p>③ 3/13「アトリエトーク「絵のはなし」、講師：泉桐子（アーティスト）、参加者数18名、顧客満足度4.8</p> <p>□全講座の参加者数 203名</p> <p>□全講座の顧客満足度 4.8</p> <p>□3展覧会</p> <p>横浜市民ギャラリー U35若手芸術家支援事業 35才以下の若手芸術家の展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇平剛史個展「Unknown Skin」(展示室B1)(4/7-4/17) 入場者数 253名 ・寺田衣里個展「the bells(死と生)」(展示室1)(6/9-6/13) 入場者数 197名 ・9/1-9/5にも展示室B1において個展開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のために開催中止となりました。 ・谷保玲奈展「まだ見えない世界」(展示室B1)(3/15-3/20) 入場者数 357名 <p>■「横浜画廊散歩」や「アートヨコハマ」では横浜美術館の事業をピックアップし、横浜市民ギャラリーあざみ野とはそれぞれの情報誌で相互に事業を紹介したほか、展覧会会期に合わせてチラシやポスター掲示を効果的な場所に設置し、SNSでの発信等、広報において連携しました。</p> <p>■横浜美術館と連携企画で、講座を開催し、双方での広報連携の一助となりました。</p> <p>「横浜[出前]美術館 岩井優トーク「かたづけたいけど、ちらかしたい。」(12/4)(再掲)</p> <p>■横浜美術館との連携以外に、横浜能楽堂とも連携企画で講座を開催し、双方での広報連携の一助となりました。</p> <p>①出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》横浜能楽堂 伝統文化一日体験オープンデー「アートハットづくり」(8/16)(再掲)</p>
--	---	---

<p>・ ホームページ、SNS等の活用による充実したタイムリーな情報発信</p> <p>・ 広報誌の定期的な発行</p>	<p>■ 横浜市の文化政策上重要な事業については、映像情報等を交えたコーナーを設置し、広報する：会期に合わせて紹介</p> <p>■ 空室情報の更新 随時</p> <p>■ 展覧会情報 会期初日に展覧会情報を紹介</p> <p>・ 定期的に情報誌を発行</p> <p>□ 「アートヨコハマ」 発行回数：年3回</p> <p>□ 「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」 発行回数：年1回</p> <p>□ 「横浜画廊散歩」 発行回数：月1回</p>	<p>② 「横浜市民ギャラリー＋横浜能楽堂連携企画 日本画（板絵）体験と横浜能楽堂見学」（12/10）（再掲）</p> <p>③ 出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》「つくってあそぼう！横浜市民ギャラリーのアトリエがやってくる！」（1/23）（再掲）</p> <p>■ 1階エントランス・送迎車内モニターでDance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021の告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。</p> <p>■ 空室情報を随時更新しました。</p> <p>■ 利用団体の展示作業が終了し次第、会場の様子を撮影し、ホームページ上で紹介しました。また、SNSでも展覧会を紹介しました。</p> <p>・ 定期的に情報誌を発行し、ホームページと連動させ、民間ギャラリーを含む横浜市内の展覧会情報を市民に提供しました。</p> <p>□ 「アートヨコハマ」 年3回（5月、8月、1月） 発行部数：10,000部/回 配布箇所：約400箇所配布</p> <p>□ 「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」 年1回（8月） 発行部数：10,000部 配布箇所：約400箇所配布</p> <p>□ 「横浜画廊散歩」 発行回数：年12回 発行部数：4,500部/月 配布箇所：約210箇所（毎月） 「アートヨコハマ」、「横浜画廊散歩」、「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」ともに今年度も広告主を安定して確保することができました。</p>
--	--	--

<p>●市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成</p> <p>・文化芸術の情報場（＝情報コーナー）における発信の工夫</p> <p>・自主企画展におけるボランティアの活用</p>	<p>■ポスター、チラシ、映像等による発信方法の工夫</p> <p>□ボランティアの活用 年1回</p>	<p>■チラシラックは常に整理に努め、展覧会の内容に合わせたチラシの配架を行い、各地の公募展の案内は「公募要項コーナー」にまとめたり、ポスターもテーマ性をもたせた掲出をするなど、工夫をこらしました。</p> <p>□ボランティアの活用 年2回</p> <p>・「横浜市こどもの美術展2021」ワークショップ材料準備ボランティア（6/26）参加者数3名</p> <p>・「コレクション展2022」鑑賞サポーター（1/8、1/22、2/13、2/27、3/6、3/12）参加者数9名、のべ45名（再掲）</p>
--	--	---

エ 創造活動を介した人々のネットワーク形成について

<p>[目指す成果]</p> <p>ネットワークの形成により市民施設、機関との関係性を育み、文化芸術活動を市民にとって身近なものとして受け取ってもらえるようにします。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>今年度も、様々な市民施設、横浜市立小学校等の教育機関等と相互交流を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止につとめつつも、結果、業務計画を上回る企画文化芸術活動を実施しました。昨年度は一部休刊していた情報誌「横浜画廊散歩」は予定通り発行することができ、他の情報誌発行と合わせて、横浜市内の美術振興の一翼を担いました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>・関連施設とのネットワーク</p> <p>■インターネット情報、印刷物相互配布 通年</p> <p>・民間ギャラリーとのネットワーク</p> <p>□「横浜画廊散歩」発行月1回</p> <p>□「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」発行 年1回</p> <p>■展覧会のホームページへの</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■関連施設とのネットワークを形成し、ホームページへ施設情報の掲載、展覧会情報や印刷物の相互提供を行いました。また近隣文化施設5館（県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリー）で構成される、《横浜・紅葉ヶ丘5館連携》会議では、ミーティングを定期的に行い、相互のイベントで広報発信を行いました。</p> <p>・画廊、美術施設との日々の細やかなやりとりが、地域とのギャラリーネットワークを形成しています。</p> <p>□「横浜画廊散歩」発行 月1回（再掲） 発行回数：年12回</p> <p>□「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」発行（再掲） 年1回(8月)</p> <p>■展覧会情報をホームページへ掲載実施したほか</p>

	<p>掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体との交流 ■貸館利用打合せ実施：通年 ・ボランティアの活用 □コレクション展にて募集 年1回 <p>・アーティスト</p> <ul style="list-style-type: none"> □大人のためのアトリエ講座 の実施 全5講座 □展覧会の実施 年3回 <p>・学校教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □アウトリーチ 年1回 	<p>SNSでも発信しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■貸館利用打合せを通年で実施しました。 □年2回 <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜市こどもの美術展2021」ワークショップ 材料準備ボランティア（再掲） ・「コレクション展2022」鑑賞サポーター（再掲） □アーティストを招聘した、大人のためのアトリエ講座を全9講座 実施しました。 □展覧会を年3回実施しました。（「横浜市こどもの美術展2021」「新・今日の作家展2021」「コレクション展2022」）（再掲） □アウトリーチ 年3回（再掲） 小学校3校9回。横浜市芸術文化教育プラットフォーム学校プログラムへ積極的に協力しました。
--	--	---

(2) 運営について

ア 創造活動の施設の提供について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務 ・多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出 	<ul style="list-style-type: none"> □全展示室利用団体の抽選会 年1回 □1～5室利用団体の利用調整 月1回 ■利用調整後の空室 先着順 ■直前での利用申込み等には、安全を確認した上での 	<ul style="list-style-type: none"> □全展示室利用(令和5年度)抽選日3/25 抽選参加団体：14団体、決定団体：14団体 □1～5室の利用 毎月1回 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、利用団体に来館していただいたうえでの抽選会は実施せず、利用希望調整（希望が重複した場合は職員による代行抽選）にて利用枠を決定しました。毎月10日までに決定。 ■空室の申込は抽選終了後、毎月15日から先着順にて受け付けました。 ■今年度の実績はありませんでしたが、日常的に直前利用申込みへの対応可能な体制を取りました。

<p>・利用団体への丁寧な相談・助言</p>	<p>対応を行う。</p> <p>■利用団体からのアンケートを運営に活かすために職員内で情報共有する。</p> <p>□利用団体からのアンケート回収率 80%以上</p> <p>□施設スタッフ全員での定期的なミーティングの開催 月1回</p> <p>■展覧会開催・終了までの利用打合せ・展示作業及び展覧会期間中の運営サポートや広報面でも協力助言し、安心して展覧会が開催できるよう支援</p> <p>□アンケート満足度 4.0 以上</p>	<p>■利用団体からのアンケートを職員内で情報共有し、運営に活かしました。</p> <p>□利用団体からのアンケート回収率 100%</p> <p>□施設スタッフ全員での定期的なミーティング 月1回開催(4/1、5/8、6/9、7/14、8/25、9/9、10/6、11/18、12/16、1/6、2/10、3/7)</p> <p>■利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前にも増して丁寧なご案内に努めました。</p> <p>□アンケート満足度 4.2</p>
<p>・利用団体の展覧会についての積極的な広報</p>	<p>■「アートヨコハマ」への開催情報の掲載</p> <p>■会場風景をホームページで紹介。展覧会情報をFacebook、twitterに掲載</p> <p>■利用者ごとの柔軟な対応</p>	<p>■「アートヨコハマ」のほか「横浜画廊散歩」に開催情報を掲載し、ホームページでも公開しました。また、「ヨコハマ・アートナビ」へ情報提供を行いました。(再掲)</p> <p>■全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介したほか、展覧会情報をFacebook、twitterに画像やハッシュタグ付で掲載するなど、利用者の展覧会への広報支援を行いました。</p> <p>■利用者からの作品の展示に関する相談に対応したほか、必要に応じて作業方法を助言するなど、利用者ごとに柔軟に対応しました。</p>
<p>・エリアを通じた施設周知</p>	<p>■5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」など、近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図る。</p>	<p>■神奈川県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリーで構成される5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」では、各施設にて定期ミーティングを行い協働事業を開催しました。当初参加を予定していた子ども向けイベントの中止に伴い、急きよ会場や規模を縮小して実施。近隣住民を中心に、幅広い年齢層の方々にクイズや工作ワークショップ、伝統芸能を楽しんでいただきまし</p>

<p>・横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供</p>	<p>■近隣・コミュニティとの連絡会の開催</p> <p>■広報連携の実施</p> <p>■空室情報の共有の実施</p>	<p>た。来場者特典として新規に制作したオリジナルグッズ「横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぼ・クリアファイル」を配布し、紅葉ヶ丘エリアの広報に結びました。</p> <p>また、昨年度は中止となった「野毛まちなかキャンパス」がオンライン開講となり、うち1講座の講師を職員がつとめました。</p> <p>①出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》横浜能楽堂 伝統文化一日体験オープンデー「アートハットづくり」(8/16) (再掲)</p> <p>②「横浜市民ギャラリー+神奈川県立音楽堂連携企画 対話型ワークショップ「茶色の朝」を体験しよう」(10/17) (再掲)</p> <p>③野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」(「横浜市民ギャラリーコレクションの形成と現在」11/22、オンライン講座)</p> <p>④黄金町エリアマネジメントセンター連携親子向けワークショップ「オープンアトリエ こうさくであそぼう！」(12/5、8) (再掲)</p> <p>⑤「横浜市民ギャラリー+横浜能楽堂連携企画 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」(12/10) (再掲)</p> <p>⑥出張ワークショップ《横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業》「つくってあそぼう!横浜市民ギャラリーのアトリエがやってくる!」(1/23) (再掲)</p> <p>■町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を定期的に行いました。</p> <p>・伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。</p> <p>■横浜市民ギャラリーあざみ野と相互に情報誌への掲載、チラシ配架、ポスター掲示、SNS発信等の広報連携を実施しました。</p> <p>■空室情報をホームページ上で公開しました。</p>
----------------------------------	--	---

<p>●利用率の向上と目標指標の達成</p> <p>●要望・苦情への適切な対応とその共有の実施</p>	<p>■ホームページでの空室情報の随時アップ</p> <p>■美術関係者・団体とのネットワーク拡大により個別に営業をかけられる体制の構築</p> <p>■抽選・利用調整に外れた全利用者への代替案の提案</p> <p>■利用希望日より6か月を切った展示室空室は、個人利用を可能とする運用の実施</p> <p>■U35 若手芸術家支援事業として、若手アーティストの展示会を共催することで、展示室の利用率向上と、若手芸術家の活動支援を実現します。</p> <p>令和3年度目標</p> <p>□来館者目標：13万人</p> <p>・利用率</p> <p>□展示室：85%</p> <p>□アトリエ：30%</p> <p>■職員ミーティングでお客様への対応の確認：随時</p> <p>■お客様へのアンケートの実施と共有：通年</p>	<p>用も行い、従来のお客様を大切にしながらも、より広い層のお客様が利用しやすい環境を整えました。</p> <p>■ホームページで空室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。</p> <p>■これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを大切に運営につなげていきます。</p> <p>■抽選（利用調整）に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。</p> <p>■利用実績がありました。 4利用</p> <p>■3 展示会実施（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇平剛史個展「Unknown Skin」 ・寺田衣里個展「the bells(死と生)」 ・谷保玲奈展「まだ見えない世界」 <p>□来館者：116,281人</p> <p>□展示室：79%</p> <p>□アトリエ：56%</p> <p>令和2年度に比べれば激減したものの、年度を通して新型コロナウイルス感染拡大を理由とする貸館展示会の開催中止（利用キャンセル）が続き、来館者数及び展示室利用率は目標達成には至りませんでした。その一方で、館内で飲食ができる部屋としてアトリエの利用が増加したため、アトリエの利用率は目標を大きく上回りました。</p> <p>■お客様対応の確認について日常的に議題にあげ、常に高いサービス実現のために職員一同取り組みました。</p> <p>■お客様へのアンケートは全職員に回覧、意見交換などを実施し、情報共有及びサービス向上に努めました。</p>
---	--	--

<p>●宮崎町親和会 (町内会)や伊勢山皇大神宮、成田山横浜別院との協力体制構築</p>	<p>■苦情・要望の分析と共有：随時 ■速やかな対応と再発防止のための情報共有：随時 ■横浜市との情報共有：随時 ■改善事例のホームページ公開：随時</p> <p>■町の美化や町内行事の参加だけでなく、一緒に施設のPR等を実施 ■宮崎町親和会での事業周知：通年 ■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール：通年</p> <p>■成田山横浜別院との情報交換 通年</p>	<p>■苦情・要望については直ちに職員間で共有し、意見交換の上、対応等を決定して速やかに対応するとともに再発防止に取り組みました。</p> <p>■横浜市との情報共有を随時行いました。</p> <p>■新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、都度変更となったガイドラインをはじめ、コロナ対応関連のご案内表記など、わかりやすい案内に努めました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の一助となるよう、自主事業企画の中でオンラインでもお楽しみいただけるコンテンツを今年度も用意しました。</p> <p>■町の美化行事への参加だけでなく、町内会の掲示板にてチラシを掲示していただくなど、一緒に施設のPR等を実施しました。(再掲)</p> <p>■町内会掲示板へのチラシ掲示により、自主事業の周知に通年でご協力いただきました。(再掲)</p> <p>■伊勢山皇大神宮に当館のチラシラックを設置していただき、ポスター掲示とともに参拝客へのアピールを通年行いました。(再掲)</p> <p>年未年始には、伊勢山皇大神宮への参拝客のために自宅から車両を出庫できなくなるエリアにお住まいの近隣の方々のために、当館の駐車場を貸し出すことで、神社との連携も深めています。</p> <p>■成田山横浜別院との情報交換を毎月行いました。</p>
<p>●送迎車の最適な運用の実施</p>	<p>■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車いす利用者等の利用にも配慮した)無料の送迎車を走行。原則、障がい者、高齢者を優先とするサービス。アクセス改善の一助とする。</p> <p>■展覧会に即して着実に運行</p> <p>■館内、ホームページで周知</p>	<p>■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で、車いす利用者等の利用にも配慮した無料の送迎車を3年度も引き続き走行し、アクセス改善の一助としました。新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を充分にしたうえで、安心してご利用いただきました。</p> <p>■展覧会の開始終了時刻を細やかに確認しながら、着実に運行しました。</p> <p>■3年度も引き続き、館内、ホームページ、野毛ちかみちの掲示板に乗り場や時刻表などを掲載したほか、チラシを桜木町駅の観光案内所で配</p>

	<p>■運行データの収集</p>	<p>布していただくなど、送迎車の周知に努めました。ホームページでは、従来のお知らせ欄に加え、昨年度に新設した専用のバナーも引き続き活用し、情報へアクセスがより容易となるよう工夫した案内を行いました。また、SNSでの発信のほか、「本日の時刻表」を館内に掲示し、よりこまやかにお知らせしました。年度後半には桜木町駅前交通広場改修工事に伴い、一時的に送迎車乗り場が分かりにくくなったため、ホームページに加えて現地での案内表記について横浜市と協議し対応しました。</p> <p>■運行データの収集を毎月行いました。関係者間で毎月会議を行い、日々のサービス向上に向けて協議しました。</p>
--	------------------	---

ウ 市民ギャラリー収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示

<p>[取組内容]</p> <p>●収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□作品の定期的な点検及び棚卸 年1回</p> <p>□館内の継続的なIPM点検による庫内環境の維持（自主点検：隔月および委託業者による全館点検：年1回）</p> <p>■収蔵作品データベースの継続的な更新</p> <p>■収蔵作家・作品関連資料の収集、整理、調査、研究</p> <p>■ホームページにおける収蔵作品検索ページの公</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■5/12、13、15、10/18、21、11/6、15、12/22、23、25、26、1/19、およびコレクション展2022前後に作品の点検を実施しました。</p> <p>□インターン生と協働し、作品の棚卸を実施しました。 年3回</p> <p>□年間を通じIPMの手法に基づき収蔵庫や館内の環境をモニタリングし、状況を把握しました。収蔵庫は学芸職員による原則週1度の定期的な清掃をするとともに、2ヶ月に1度カビのサンプリング等の点検の上、専門業者による分析とフィードバックを継続し正確なデータを蓄積しました。また、年に1度専門業者による殺菌を行うほか、必要な場合は学芸職員が簡易殺菌を行うなど、環境向上に努めました。</p> <p>■作品データベースについて、収蔵作品にまつわるデータを随時更新しました。</p> <p>■収蔵作家・作品関連資料の収集、整理、調査、研究を随時実施しました。</p> <p>■インターン生と共同し、過去に開催した展覧会資料のデータ化を開始しました。</p> <p>■作品21点の撮影を実施しました。</p> <p>■平成30年度に公開した収蔵作品検索ページを継続して公開・更新しました。また、同ページに</p>
---	---	--

<p>●資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施</p>	<p>開、更新（再掲）</p> <p>□コレクション展の実施 1回</p> <p>□ホームページでの収蔵作品の紹介 12点</p> <p>■作品修復・クリーニングの実施</p> <p>■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴について継続的に整理・調査、データベースを更新</p> <p>□コレクション展の実施 1回</p> <p>□ホームページでの収蔵作品の紹介 12点</p> <p>■ホームページにおける収蔵作品検索ページの公開、更新（再掲）</p>	<p>おけるサムネイル図版の公開を開始し、251件を新規公開しました。</p> <p>□コレクション展2022「モノクローム—版画と写真を中心に」（2/25-3/13）（再掲）（展示室1、B1）を実施。</p> <p>□ホームページでの収蔵作品紹介 12点 五十嵐英壽《ハマの三塔》、町田京子《児童遊園地》、高梨潔《ヨットハーバー（新山下）》、栃木順子《もう一つの風景-B》、河崎英男《ハイウェイ》、松島一郎《横浜公園》、杉浦勝人《卓上風景》、小島昇《塔のある風景》、西森禎子《ZEROの誕生》、斎藤義重《ボウパンA・白》、一原有徳《SON88》、海老原暎《ベンチシリーズ5》（再掲）</p> <p>■作品2点の業者委託修復、1点の一部自前処置並行・業者修復、1点の一部自前処置並行・業者クリーニング、6点の自前クリーニングを実施しました。</p> <p>■作品データベースについて、収蔵作品にまつわるデータを随時更新しました。（再掲）</p> <p>■従来から進めていた作品状態調査書のデータ化を197件実施しました。</p> <p>□コレクション展2022「モノクローム—版画と写真を中心に」（2/25-3/13）（再掲）（展示室1、B1）を実施。</p> <p>□ホームページでの収蔵作品紹介 12点 五十嵐英壽《ハマの三塔》、等12点（再掲）記載略</p> <p>■平成30年度に公開した収蔵作品検索ページを継続して公開・更新しました。また、同ページにおけるサムネイル図版の公開を開始し、251件を新規公開しました。</p>
--	--	--

エ 運営組織の構築及び組織的な運営

<p>[取組内容]</p> <p>●適切な運営組織体制と人材の配置</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■人材の配置について</p> <table border="1" data-bbox="375 1877 879 2024"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>館長</td> <td>1人</td> <td>固有</td> </tr> <tr> <td>事業・運営管理責</td> <td>1人</td> <td>固有</td> </tr> </tbody> </table>	項目	人数	備考	館長	1人	固有	事業・運営管理責	1人	固有	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■人材の配置について</p> <table border="1" data-bbox="901 1877 1426 2024"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>館長</td> <td>1人</td> <td>固有</td> </tr> <tr> <td>事業・運営管理責任</td> <td>1人</td> <td>固有</td> </tr> </tbody> </table>	項目	人数	備考	館長	1人	固有	事業・運営管理責任	1人	固有
項目	人数	備考																		
館長	1人	固有																		
事業・運営管理責	1人	固有																		
項目	人数	備考																		
館長	1人	固有																		
事業・運営管理責任	1人	固有																		

	任者			者		
	学芸・事業	4人	固有	学芸・事業	4人	固有
	施設運営担当	4人	固有	施設運営担当	4人	固有
	施設管理責任者	1人	固有	施設管理責任者	1人	固有
	施設管理副責任者	3人	固有	施設管理副責任者	3人	固有
	施設管理担当	1人	固有	施設管理担当	1人	固有
	警備チーフ	1人	固有	警備チーフ	1人	固有
	警備担当	5人	固有	警備担当	5人	固有
	清掃チーフ	1人	固有	清掃チーフ	1人	固有
	清掃担当	3人	固有	清掃担当	3人	固有
	常勤アルバイト	2人	週4日	常勤アルバイト	2人	週4日
	短期アルバイト	2人	講座開講日等	短期アルバイト	2人	講座開講日等
	<p>●組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務</p>	<p>■勤務体制について</p> <p>ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じて、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設スタッフ 原則常時6名以上 <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務室スタッフ 原則3名以上 設備管理スタッフ 開館時：設備1名、警備2名、清掃2名、5名以上 閉館時：設備1名、警備2名、3名以上 <p><input type="checkbox"/>定例会の実施 月1回</p> <p><input type="checkbox"/>研修 年2回</p>	<p>■勤務体制について</p> <p>ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じて、勤務体制を調整し、柔軟に対応しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設スタッフ 原則常時6名以上配置しました。 <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務室スタッフ 原則3名以上配置しました。 設備管理スタッフ 開館時：設備1名、警備2名、清掃2名 計5名以上配置しました。 閉館時：設備1名、警備2名 計3名以上配置しました。 <p><input type="checkbox"/>定例会月1回実施 (4/1、5/8、6/9、7/14、8/25、9/9、10/6、11/18、12/16、1/6、2/10、3/7)</p> <p><input type="checkbox"/>研修 年8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報研修 (4/1) 財団新人研修(施設訪問) (4/5) ダイバーシティ研修 (10/22) 評価者研修 (11/1～11/30) 			

<p>改善のための会議を定期的に実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・広報研修（12/14） ・人権研修（1/6～1/31） ・専門人材研修（2/4） ・専門人材研修（3/15） <p>等に参加し、職員間で情報共有しました。</p>
---	--	---

オ 本市の重要施策を踏まえた取組について

<p>[取組内容]</p> <p>●個人情報保護についての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い ・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングでスタッフの個人情報取扱いに対する意識を高める。 ・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止 ・個人情報の適切な管理の徹底 <p>●情報公開についての取組</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□過失による個人情報流出事故 0件</p> <p>■規定に基づく適切な対応</p> <p>■事業計画書及び事業報告書の財団ホームページでの公開</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□以下の取組を行った結果、事故は0件でした。</p> <p>■個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。</p> <p>■コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有のミーティングを実施しました。</p> <p>■ダブルチェックの徹底等、個人情報漏えいの防止に最新の注意を払いました。</p> <p>■個人情報の適切な管理を徹底しました。</p> <p>■規定に基づき適切な対応を行いました。</p> <p>■事業計画書及び事業報告書を財団及び横浜市民ギャラリーホームページで公開しました。</p>
---	---	--

<p>●人権尊重についての取組</p>	<p>■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施</p> <p>□横浜市主催の人権講習に職員が参加し、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取組を実施する。</p> <p>研修 年1回</p>	<p>■研修への参加や事例の共有を通じて、人権に配慮した運営や接遇を実施しました。</p> <p>□横浜市主催の人権研修を各自オンライン受講することで、人権尊重の意識を高めました。</p> <p>人権研修 年1回実施（1/6～1/31）</p>
<p>●環境への配慮に関する取組</p>	<p>■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化</p> <p>■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「ヨコハマ3R夢(スリム)プラン」に基づいた施設管理</p> <p>□施設内での空気環境測定の実施：1回/2か月</p>	<p>■新型コロナウイルス感染拡大防止のため空調に負荷がかかる中、全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置を活用し、効率的な省エネを実現しました。</p> <p>■環境対策について横浜市の施策に沿った施設管理を行いました。</p> <p>□施設内での空気環境測定の実施 1回/2か月（5/12、7/6、9/7、11/9、1/12、3/21）</p>
<p>●市内中小企業優先発注についての取組</p>	<p>■物品購入・委託等は、特別な専門性の必要なもの等の理由がある場合を除き、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業に発注</p>	<p>■業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。</p>

カ 諸室の利用内容について

<p>[取組内容]</p> <p>●開館について</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□開館について</p> <table border="1" data-bbox="339 1637 762 1733"> <tr> <td>開館日数</td> <td>347日</td> </tr> <tr> <td>営業時間</td> <td>10時～18時</td> </tr> </table>	開館日数	347日	営業時間	10時～18時	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□開館について</p> <table border="1" data-bbox="890 1637 1313 1733"> <tr> <td>開館日数</td> <td>347日</td> </tr> <tr> <td>営業時間</td> <td>10時～18時</td> </tr> </table>	開館日数	347日	営業時間	10時～18時
開館日数	347日									
営業時間	10時～18時									
開館日数	347日									
営業時間	10時～18時									

●利用料金 について	□利用料金について				□利用料金について					
	展示室		面積 (㎡)	料金/日(円)		展示室		面積 (㎡)	料金/日(円)	
				入場 無料	入場 有料				入場 無料	入場 有料
	地下		170	5,000	10,000	地下		170	5,000	10,000
	1階		184	5,500	11,000	1階		184	5,500	11,000
	2階	全面	396	11,500	23,000	2階	全面	396	11,500	23,000
		A	225	6,500	13,000		A	225	6,500	13,000
		B	171	5,000	10,000		B	171	5,000	10,000
	3階	全面	396	11,500	23,000	3階	全面	396	11,500	23,000
		A	225	6,500	13,000		A	225	6,500	13,000
B		171	5,000	10,000	B		171	5,000	10,000	
全室		1,146	33,500	67,000	全室		1,146	33,500	67,000	
アトリエ		面積 (㎡)	区分利用料金		アトリエ		面積 (㎡)	区分利用料金		
			10:00~13:30	一日				10:00~13:30	一日	
		14:00~17:30					14:00~17:30			
平日	148.6	6,500	12,000		平日	148.6	6,500	12,000		
土日祝		7,500	14,500		土日祝		7,500	14,500		
駐車場	30分100円				駐車場	30分100円				

(3) 管理について

ア 施設、設備の維持保全及び管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●PDC Aサイクルに基づく、計画的で高水準な施設管理業務の実施	<p>■施設・設備について高水準で効率的な定期点検及び日常点検の実施</p> <p>■施設(建築物)、設備、及び備品の破損、不具合等の異常時には、利用者の安全を確保すると共に、施設の運営に支障をきたすことのないように適切な措置を講じ、速やかに報告する。</p> <p>□設備の過失による運転停止事故：0件</p>	<p>■経験豊富な専門職員が定期的および日常的に点検し、利用者の要望や急激な気候の変化に対応できるよう、施設設備の機能維持に努めました。</p> <p>■異常時には直ちに対応できるよう施設管理職員と運営職員間の連絡体制を整え、修繕履歴等のデータを共有・蓄積し、今後に役立てる手立てとしました。</p> <p>□設備の過失による運転停止事故：0件</p>

<p>●施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施</p>	<p>■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような、管理の実施</p> <p>□アンケートでの快適評価 4.0 以上</p> <p>□施設ハード面での過失による事故：0件</p>	<p>■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態で保つよう努めました。</p> <p>□アンケートでの快適評価 4.6</p> <p>□施設ハード面での過失による事故：0件</p>
<p>●保守点検、備品管理、環境維持の実施</p>	<p>■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有</p> <p>■備品の適切かつ良好な状態での管理</p> <p>■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルに努める。</p>	<p>■日誌や点検記録は担当職員と管理職で回覧共有し、保管しました。</p> <p>■安全で清潔な施設管理のために備品を常に良好な状態に保ちました。</p> <p>■環境対策の一環として常に廃棄物の排出量を把握した上で、減量やリサイクルに努めました。</p>
<p>●収蔵庫の適切な管理の実施</p>	<p>■空調管理の実施</p> <p>□管理目標値 室温 22℃ (±3℃)、湿度 53% (±3%)</p> <p>■収蔵庫内および収蔵庫周辺の定期的な清掃、必要に応じた館内・備品も含めた清掃と簡易消毒の実施</p> <p>週1回および適宜</p>	<p>■空調機器が自動制御ではないため、美術品保護に必要な温湿度管理のためにデータを蓄積しながら可能な限り空調管理を実施しましたが、目標を達成できたのは2か月に留まりました。</p> <p>■8月および2月にパッシブインジケータ48時間曝露方式、また1/13に検知管方式により収蔵庫内の空気環境測定を実施しました。</p> <p>■学芸職員が原則週1回定期的に清掃し、美術品保護及び環境維持を行いました。必要に応じ収蔵庫周辺およびその他の場所の清掃や簡易殺菌を実施しました。</p>

イ 小破修繕への取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●効果的な小破修繕への取組</p>	<p>■施設管理に対する全職員の意識の向上</p>	<p>■情報共有のほか会議で取り上げるなど、施設管理に対する全職員の意識の向上に努めました。</p>

<p>●保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応</p> <p>●多角的視点からの小破修繕箇所早期発見</p>	<p>■全職員及び横浜市との情報の共有</p> <p>■全修繕履歴の年度毎のデータ化</p> <p>■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対処</p> <p>■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応により施設の長寿命化を図る。</p>	<p>■修繕に関する施設内での情報共有のほか、モニタリングや設備トラブル報告書を通して横浜市と情報共有をしました。</p> <p>■全修繕履歴の年度毎のデータ化を行いました。</p> <p>■豊富な経験を有する共同事業体の専門職員を中心に、突発的な修繕を必要とされる場合でも速やかに対処しました。</p> <p>■横浜市の施設管理におけるガイドラインだけではなく、インターネットや他施設の情報など、多角的な知見を得て業務に対応しました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとる中であっても、照明設備や空調設備等はこまめに状態を確認して管理し、不要な運転を減らすことで省エネだけではなく機械の長寿命化につなげることができるよう配慮した取組を行いました。</p>
---	---	---

ウ 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●事故防止体制・緊急時のための方針と対策</p> <p>・警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施</p>	<p>■警備専門スタッフが午前8時半から午後6時半まで1階受付及び警備室に常駐し、それ以外の時間帯である午後6時半から翌午前8時半までは機械警備にて万全の警備体制を実施する。</p> <p>■業務の基準に基づき、警備の実施と利用者の入退出の適切な管理</p> <p>□過失による事故 0件</p>	<p>■人的警備、機械警備とも業務計画通り実施し、施設の安全を図りました。また、運用状況に応じて適切な警備を行いました。</p> <p>■業務の基準に基づき、来館者が安心・安全に施設を利用できるよう警備や管理を行いました。</p> <p>□過失による事故 0件</p>

<p>・関連法規等の遵守</p>	<p>■業務を遂行する上で、定められた関連法規等を遵守する。</p>	<p>■「消防法」「警備業法」等、定められた関連法規等を遵守しました。</p>
<p>・警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施</p>	<p>■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づいた警備業務の実施 ■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有</p>	<p>■警備計画書及び巡回警備計画書に沿った警備業務を実施し、安全な施設運営に努めました。 ■業務日誌を毎日作成及び回覧し、情報共有を図りました。</p>
<p>・施設内外への防犯対策の実施</p>	<p>■警備スタッフによる、施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施</p>	<p>■近隣の防犯対策の実施や交通状況への対処など、周辺道路に対しても対応し、地域の一員としての責務を果たしました。</p>
<p>・救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施</p>	<p>■救急セットやAEDの完備 ■AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等を対象に、研修を実施する。 ■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果の確認</p>	<p>■救急セット及びAEDを完備しました。 ■対象者がいなかったため、外部講師の指導を受ける形での研修はありませんでしたが、防災訓練の際には、操作方法について確認を行いました。 ■毎日目視によるセルフメンテナンスチェック結果を確認しました。</p>
<p>●新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染症対策</p>	<p>■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底 ■新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドラインを職員、全ての来館者が守れるように対応 ■万が一新型コロナウイルス感染者が出た場合は迅速に保健所等に届け出、その後の適切な対応をはかる。 ■常時マスク装着の徹底、密の回避、可能な限りの換気実施</p>	<p>■衛生管理の意識を高く持ち、異常時には直ちに報告・対処できる体制にしました。 ■横浜市からのガイドライン変更指示に迅速に対応し、ご利用者への丁寧な説明につとめました。 ■横浜市と連携を密にし、対応しました。 ■網戸を取り付けてある窓を開けるなど、換気能力の向上を図りました。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■感染症予防のための掲示の実施や消毒液の設置 ■感染症への留意と異常時の迅速な対応 ■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス、インフルエンザ等の予防のための掲示を実施し、体温測定器、手指用消毒液等を設置しました。 ■ガイドラインの遵守や、定員を減らしたうえでの自主事業の実施、展示室の入替時には備品の消毒を行うなど、横浜市とともにウイルス感染拡大防止に努めました。 ■汚物の処理にあたっては処理キットを備え、処理時の手袋・マスクの装着を徹底しました。
--	--	---

エ 防災に対する取組

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緊急時の連絡体制・役割分担 ●平常時の防災対策 ●災害発生時の 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■緊急時の対応を明確にし、緊急連絡網を作成し、市に提出する。 ■関連法規に基づいた届出等を行う。 ■災害時には、危機管理マニュアルに沿った対応ができるように、日頃からの危機意識を向上する。 ■全スタッフ対象の訓練を実施し、日頃から防災意識を高める。 □危機管理マニュアルに基づき、災害時に来館者を安全に誘導できるようスタッフの消防訓練を行う。 消防訓練 年2回実施 ■自衛防災組織を設置し、継続的に防災訓練を行う。 ■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす。 ■関連法令、条例、業務の基 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■緊急時に迅速に対応できるよう緊急連絡網を作成し、市に提出しました。変更の場合も迅速に再提出を行いました。 ■防火管理者を配置し、関連法規に基づいた届出等を行いました。 ■シフト体制であっても瞬時に災害に対処できるように、出勤者の記名ボードに、災害時の役割を毎日明示することで、常に各自の役割が分かる工夫をしています。 □消防・防災訓練 年2回実施(7/6、3/8) ■自衛防災組織を設置し、継続的に防災訓練を行いました。 ■町内会と定期的に会議を持ちました。 ■大規模地震、火災といった災害は発生しませんでした。
--	--	--

<p>取組</p> <p>●帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組</p>	<p>準に基づき、来館者の安全確保を最優先とし適切に対応</p> <p>■情報管理の一元化及び適切な報告を行う。</p> <p>■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上で適切な対応を行う。</p> <p>■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄</p> <p>■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保</p> <p>■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と原状復旧体制の確保</p>	<p>したが、消防・防災訓練を実施したほか、地震発生時には館内点検を実施しました。また新型コロナウイルス感染症拡大に対してはガイドラインに準拠した対応を行いました。</p> <p>■情報管理の一元化及び適切な報告を行うため日常的に館長への情報集約を実施しました。</p> <p>■大規模地震、火災といった災害の発生はありませんでしたが、新型コロナウイルス感染症については、横浜市との協議のうえで、対策を実施しました。</p> <p>■15人×3日分の非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄を整えました。</p> <p>■災害時には適切な情報収集を行うことをスタッフ内で確認しました。</p> <p>■災害鎮静後には危機管理マニュアルに基づき適切に対処し、原状復旧体制をとることをスタッフ内で確認しました。</p>
---	---	--

(4) 収支について

ア 指定管理料のみに依存しない収入構造

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●利用率の向上による利用料金収入の増加への取組</p>	<p>□施設の感染症対策を徹底したうえで、利用率維持に努める。</p> <p>令和3年度目標額 9,850,000円</p>	<p>□新型コロナウイルス感染症拡大のため、キャンセルが発生しましたが、昨年度に比べると少なく、その結果、利用料金収入の最終的な実績値は目標額を若干上回りました。</p> <p>令和3年度利用料金実績 10,046,060円</p>
<p>●周知等による駐車場の利用料金収入の増加への取組</p>	<p>□近隣寺社等への周知活動の実施により駐車場の利用の減少幅低下を目指す。</p> <p>令和3年度目標額 1,000,000円</p>	<p>□展示室の利用率が持ち直してきたことや、入館者数が増えたことにより、大幅に増収となりました。</p> <p>令和3年度実績 1,632,000円</p>
<p>●助成金・協賛金・広告料収入の獲得</p>	<p>□助成金・協賛金の獲得</p> <p>令和3年度目標額 500,000円</p>	<p>□助成金・協賛金の獲得</p> <p>公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人野村財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、アイスタイル芸術スポーツ振興財団への申</p>

<p>●周知等による講座料収入の増加への取組</p> <p>●自動販売機の販売収入の増加への取組</p>	<p>□広告料 令和3年度目標額 600,000円</p> <p>□独自の事業周知の取組みに加え、財団の広報ネットワークや管理運営する美術系施設間と連携した周知等により事業参加者数の増加を目指す。</p> <p>令和3年度目標受講料</p> <p>□大人のためのアトリエ講座 810,000円</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 185,000円</p> <p>□客層の嗜好に合わせた内容を販売することで販売収入を確保する。</p> <p>令和3年度目標額 160,000円</p>	<p>請の結果、不採択</p> <p>□広告料 昨年度から新しく増やした広告スペースを継続して確保し、多くの広告主に継続して掲載いただけたことで、目標を上回る広告料収入となりました。</p> <p>令和3年度実績 619,500円</p> <p>□ホームページやSNSを利用した周知に加え、財団の広報ネットワークと連携したより広い媒体への周知や施設へのチラシ配架を行いました。ハマキッズ・アートクラブでは、すべての講座で定員を上回る応募がありましたが、当初見込んでいた新型コロナウイルス感染拡大状況の好転時の定員増員がかなわず、受講料収入は目標を下回りました。</p> <p>令和3年度受講料実績</p> <p>□大人のためのアトリエ講座 899,000円</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ 166,900円</p> <p>□新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、館内では水分補給以外原則飲食禁止のため、来館者層を予測しながら販売内容を決定しましたが、目標額は達成できませんでした。</p> <p>令和3年度実績 114,740円</p>
--	--	--

イ 経費削減等効率的運営の努力

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●発注及び事務の効率化等による経費削減</p>	<p>■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組の実施</p> <p>■事務用品の再利用化の推進</p> <p>■広報物の発送の効率化による経費の削減</p> <p>■計画的な経理処理による手数料の削減</p>	<p>■入札や見積り合わせ等、支出を最小限に抑える取組を実施しました。</p> <p>■分別した上、裏紙利用など、資源の再利用に努めたほか、会議等で職員の節約に対する意識を高めました。</p> <p>■発送計画を立て、作業日を集中させるなど、広報物の発送の効率化による経費の削減を実施しました。</p> <p>■計画的な経理処理により手数料の削減を心がけました。</p>

●適切な施設及び設備管理による経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ■施設・設備の効率的な運用による経費削減 ■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制 ■早期の修繕実施による長期における経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■過年度のデータをもとに細やかで効率的な設備運転を実施しました。 ■日常的に共同事業体間の情報共有を密に行い、現状を把握したうえで計画的に修繕を行いました。 ■設備担当の日常点検だけではなく、全職員の意識を高め、不具合があれば迅速に報告・対処しました。
●職員の業務の効率化による経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ■職員会議や面談による職員の業務の効率化への意識の統一 ■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■日常の勤務状況を踏まえた上で職員会議や面談により、職員の業務の効率化への意識統一を図りました。 ■入札見積合わせ等、経理規程に基づきながら契約発注をしたほか、平素から超過勤務削減への職員間の意識を高め、業務に対する経費削減に努めました。
●展覧会や講座等の事業にかかる経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ■作家や講師と協働での事業企画による経費削減 ■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■作家や講師に事業の趣旨や意義を伝え共感していただくことで、経費の工夫など経済的にも協力していただきました。また講座で必要な備品を当財団内から借用したり、横浜美術館休館に伴い不要となった講座材料を当館で再利用したりするなど経費削減に努めました。 ■企業に協賛依頼を検討しましたが、実現には至りませんでした。

(5) PDCAサイクルの確実な運用

[取組内容] ●日報及び月間事業報告書の作成・管理	[達成指標] <ul style="list-style-type: none"> ■各種日報の作成 ■月報を作成しモニタリング時に提出 ■各日報、月報を適切に管理保管 	<ul style="list-style-type: none"> ■各種日報を作成し、担当部署及び管理職に回覧、情報共有を図りました。 ■月報を作成しモニタリング時に提出しました。 ■各日報、月報を適切に管理保管しました。
●業務計画書及び業務報告書の作成・管理	<ul style="list-style-type: none"> ■業務計画書(次年度の業務計画、収支予算)を作成し横浜市に提出 ■業務報告書(前年度の業務報告及び利用実績、収支 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務計画書(次年度の業務計画、収支予算)を作成し横浜市に提出しました。 ■業務報告書(前年度の業務報告及び利用実績、収支決算)を作成し横浜市に提出しました。

<p>●業務評価(モニタリング、自己評価、第三者による評価の実施)</p>	<p>決算)を作成し横浜市に提出</p> <p>■定期的にモニタリングを実施し、横浜市に運営状況の報告</p> <p>■自己評価の実施</p>	<p>■横浜市の担当者と毎月1回のモニタリングを実施し、運営状況を報告しました。</p> <p>■自己評価を実施しました。</p>
---------------------------------------	---	---

(6) その他

<p>[取組内容]</p> <p>●保険及び損害賠償の取扱い</p> <p>●関係法令の順守</p> <p>●市及び関係機関等との連絡調整</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入</p> <p>■業務を遂行するうえで、定められた関係法令等を遵守</p> <p>■横浜市とのモニタリングを定期的開催</p>	<p>■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険に加入しました。</p> <p>■業務を遂行するうえで、定められた関係法令等を遵守しました。</p> <p>■横浜市とのモニタリングを定期的開催しました。(4/8、5/25、6/24、7/30、10/7、11/30、12/27、1/24、2/24、3/25)</p>
---	---	--

【別紙】自主事業一覧

No	実施 時期	主催・ 共催・ 協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・ 参加者 数(人) (見込者 数)	実施回 数
1	9/18- 10/10	主催	新・今日の作家展 2021「日常の輪郭」 [関連事業] ・対談「田代一倫×百瀬文」(8/5) ・対談「身体の管理／抑圧と欲望の関係について」(9/25) ・対談「肖像写真とスナップショット」(10/2) [映像コンテンツ] ・出品作家インタビュー(田代一倫、百瀬文) ・対談「田代一倫×百瀬文」、「身体の管理／抑 圧と欲望の関係について」、「肖像写真とスナ ップショット」	展示室 B1、1	1964 年から 2006 年まで開催した現代 美術の年次展「今日の作家展」の歴史 を継承し、現在進行形の美術を紹介す る。 出品作家: 田代一倫、百瀬文	4,274 (3,000)	1 事業 関連事 業3事業
2	2/25- 3/13	主催	コレクション展 2022「モノクローム—版画と写真 を中心に」 [関連事業] ・ワークショップ「凸凹(でこぼこ)で刷る版画・コ ラグラフ」(2/26) ・鑑賞サポーターによるトーク(3/6、12) ・ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリー まるごと探検ツアー」(3/12) [映像コンテンツ] ・出品作家インタビュー(北川健次、浜口タカシ)	展示室 B1、1	モノクロームをテーマに、版画、写真等 54 点を紹介。以下のセクションで構成。 1.線とかたち 2.光と闇 3.人のいる風景 4.イマジネーション 特別展示 浜口タカシ—〈北海に生き る〉より	3,635 (2,000)	1 事業 関連事 業3事業
3	7/23- 8/1	主催	横浜市こどもの美術展 2021 [関連事業] ・ハマキッズ・アートクラブ作品展示(7/23-8/1) ・「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐ History & Memory」展示(7/23-8/1) ・おうちでワークショップ「オリジナルメダルをつく ろう！」(7/23-8/1、みんなの作品紹介動画 公開8/18～)	展示室1、2	市内在住・在学の 12 歳(小学生)以下 の幼児・児童を対象とした無審査の公 募展。作品募集対象を個人に限定して 実施。	1,974 (3,000)	1 事業 関連事 業3事業
4	4-3 月	主催	ハマキッズ・アートクラブ	アトリエ	小学生以下の子どもが対象の造形を 中心とする講座。	153 (100)	10 講座
5	4-3 月	主催	大人のためのアトリエ講座	アトリエ	専門的な創作活動を体験する造形講 座と、芸術文化各分野で活動している 方を講師に招く聴講講座。	203 (130)	13 講座

6	4/7- 3/20	共催	横浜市民ギャラリー U35 若手芸術家支援事業	展示室B1	35才以下の若手芸術家の展覧会 ・宇平剛史個展「Unknown Skin」 ・寺田衣里個展「the bells(死と生)」 ・谷保玲奈展「まだ見えない世界」	253 197 357 (-)	3事業
7	通年	その他	ボランティア、インターン活動 ①横浜子ども美術展ワークショップ材料準備ボランティア(6/26) ②横浜市民ギャラリーコレクション展 2022 鑑賞サポーター(1/8・22、2/13・27、3/6・12) ③インターン(通年)	展示室1 展示室B1 アトリエ 事務室 横浜能楽堂	①展覧会ワークショップの材料準備 ②コレクション展作品紹介文執筆、ギャラリートーク ③子ども向け事業企画・運営業務、コレクション管理補助業務、展覧会データベース構築補助業務	①3 ②7 ③6 (-)	-
8	12月		横浜美術館連携講座 ①「横浜[出前]美術館 岩井優トーク「かたづけたいけど、ちらかしたい。」(12/4)	アトリエ	①アーティストによる大人向けトーク講座(インスタレーション展示含む)	18 (20)	1事業
9	10-1 月	協力	横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム	市内	市内学校へアーティストが出向き、プログラムを実施	381 (-)	3校9回
10	通年	主催	5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」 ①出張ワークショップ「横浜・紅葉ヶ丘まいらん 協働事業」横浜能楽堂 伝統文化一日体験オープンデー「アートハットづくり」(8/16) ②「横浜市民ギャラリー+神奈川県立音楽堂連携企画 対話型ワークショップ「茶色の朝」を体験しよう」(10/17) ③黄金町エリアマネジメントセンター連携親子向けワークショップ「オープンアトリエ こうさくであそぼう！」(12/5、8) ④「横浜市民ギャラリー+横浜能楽堂連携企画 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」(12/10) ⑤出張ワークショップ「横浜・紅葉ヶ丘まいらん 協働事業」「つくってあそぼう！横浜市民ギャラリーのアトリエがやってくる！」(1/23)	近隣5施設 (神奈川県立音楽堂、神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館、横浜市民ギャラリー、横浜能楽堂)	①親子向け工作ワークショップ ②アーティストによる大人向け実技講座 ③親子向け工作ワークショップ ④能楽堂見学と日本画技法体験 ⑤5館協働事業 (会場:能楽堂・音楽堂) ・横浜能楽堂特別見学会 ・音楽堂クイズ ・ワークショップ(市民ギャラリーインターン企画) ・参加者への景品進呈(横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽオリジナルクリアファイル)	①28 (-) ②6 (-) ③39 (-) ④32 (-) ⑤114 (-)	-
11	通年	その他	広報事業 「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」「アートヨコハマ」「横浜画廊散歩」の発行等	-	情報誌3種「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」「アートヨコハマ」「横浜画廊散歩」の発行とホームページでの情報発信を行う。	-	-
12	通年	その他	コレクション管理～環境維持	-	収蔵庫の環境管理、所蔵品の点検・データ更新、修復、貸出対応等を行う。	-	-
13	通年	その他	コレクション管理～所蔵作品管理、調査研究	-	収蔵作家・作品関連資料の収集、整理、調査、研究を行う。	-	-

14	通年	その他	出品・所蔵作家／関係者インタビュー	—	①「新・今日の作家展 2021」出品作家 インタビュー ・田代一倫(7/15) ・百瀬文(7/26) ②コレクション展 2022 出品作家インタ ビュー ・北川健次(11/30)	①2名 ②1名 (—)	
----	----	-----	-------------------	---	---	-------------------	--

(指定管理者が記入する様式)

令和3年度 「横浜市民ギャラリー」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	147,671,000		147,671,000	147,671,000	0	横浜市より
利用料金収入	10,850,000		10,850,000	11,678,060	△ 828,060	施設利用料、駐車場利用料
自主事業収入	995,000		995,000	1,080,900	△ 85,900	入場料、講座料
横浜市費用負担	0		0	0	0	
雑入	1,723,000	0	1,723,000	1,744,232	△ 21,232	
印刷代	40,000		40,000	16,470	23,530	
自動販売機手数料	160,000		160,000	114,740	45,260	
その他(助成金・協賛金・広告料等)	1,523,000		1,523,000	1,613,022	△ 90,022	
収入合計	161,239,000	0	161,239,000	162,174,192	△ 935,192	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	75,168,000	0	75,168,000	73,782,195	1,385,805	
給与・賃金	62,571,000		62,571,000	61,305,776	1,265,224	
社会保険料	8,381,000		8,381,000	8,809,332	△ 428,332	
通勤手当	1,350,000		1,350,000	1,377,082	△ 27,082	
健康診断費	73,000		73,000	58,895	14,105	
勤労者福祉共済掛金	54,000		54,000	65,322	△ 11,322	
退職給付引当金繰入額	2,739,000		2,739,000	2,165,788	573,212	
事務費	3,226,000	0	3,226,000	3,812,793	△ 586,793	
旅費	150,000		150,000	60,110	89,890	
消耗品費	173,000		173,000	777,839	△ 604,839	
会議ठी費	3,000		3,000	989	2,011	
印刷製本費	150,000		150,000	98,549	51,451	
通信費	710,000		710,000	760,516	△ 50,516	
使用料及び賃借料	693,000	0	693,000	737,540	△ 44,540	
横浜市への支払分	123,000		123,000	122,760	240	
その他	570,000		570,000	614,780	△ 44,780	
備品購入費	0		0	130,900	△ 130,900	
図書購入費	28,000		28,000	0	28,000	
施設賠償責任保険	33,000		33,000	24,950	8,050	
職員等研修費	10,000		10,000	0	10,000	
振込手数料	157,000		157,000	105,490	51,510	
リース料	1,080,000		1,080,000	1,078,620	1,380	
手数料	3,000		3,000	1,290	1,710	
地域協力費	36,000		36,000	36,000	0	
事業費	16,475,000	0	16,475,000	15,299,706	1,175,294	
自主事業費	16,475,000		16,475,000	15,299,706	1,175,294	
管理費	53,301,000	0	53,301,000	53,048,609	252,391	
光熱水費	7,500,000	0	7,500,000	6,337,096	1,162,904	
電気料金	4,700,000		4,700,000	3,851,079	848,921	
ガス料金	2,080,000		2,080,000	1,979,513	100,487	
水道料金	720,000		720,000	506,504	213,496	
清掃費	0		0	0	0	
修繕費	600,000		600,000	448,580	151,420	
機械警備費	396,000		396,000	396,000	0	
設備保全費	44,805,000	0	44,805,000	45,866,933	△ 1,061,933	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	473,000		473,000	473,000	0	
電気設備保守	331,000		331,000	410,520	△ 79,520	
害虫駆除清掃保守	1,800,000		1,800,000	1,840,630	△ 40,630	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	42,201,000		42,201,000	43,142,783	△ 941,783	清掃費、設備管理業務、送迎車委託費等
共益費	0		0	0	0	
公租公課	6,756,000	0	6,756,000	7,235,547	△ 479,547	
事業所税	16,000		16,000	0	16,000	
消費税	6,710,000		6,710,000	7,186,500	△ 476,500	
印紙税	25,000		25,000	30,000	△ 5,000	
その他(法人住民税、電波使用料)	5,000		5,000	19,047	△ 14,047	
事務経費 (計算根拠を説明欄に)	6,313,000	0	6,313,000	6,313,000	0	
本部分	6,313,000		6,313,000	6,313,000	0	
当該施設分			0		0	
支出合計	161,239,000	0	161,239,000	159,491,850	1,747,150	
差引	0	0	0	2,682,342	△ 2,682,342	